

# 防災力を高めよう！ ～備えあれば憂いなし～

社会福祉法人 恩賜財団 愛知県同胞援護会  
ケアハウス春緑苑  
**すずめの宿**

## 施設長からひとこと

- 活動が与えた施設への効果  
形だけの訓練ではなく、真剣な取り組みにより、入居者のみならず職員も安心して生活できる環境づくりができました。
- 実践者(サークル)に一言  
予測できない災害に対する上限のない防備のため、現状把握や対策を数多く行っていただきました。常に入居者の安全・安心を考え、頑張っていました。



●所在地	愛知県春日井市
●施設のQC活動年数	9年
●構成人員	3名
●現メンバーでの活動暦	4年目
●メンバーの平均年齢	38歳
●構成メンバー職種	相談員、介護士
●本テーマの活動期間	6ヵ月
●本テーマの会合回数	10回
●会合時間	1回平均45分
●主な活動時間	業務時間内外

## 1. 職場紹介

ケアハウス春緑苑は、平成11年10月に設立されました。近隣には、同一法人の特別養護老人ホーム、短期入所施設、通所介護、訪問介護、グループホーム、訪問入浴、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、福祉用具貸与事業所があり、地域の福祉の拠点として幅広いサービスを提供しています。

## 2. テーマの選定

当施設は定期的に避難訓練を実施していましたが、災害に対して危機感を感じておらず、ただ訓練を実施しているだけという状態でした。

平成20年に、他県の老人施設において、火災により尊い命が失われた事件がありました。当園の入居者の平均年齢は84歳、夜間は宿直者1名という体制であり、決して他人事ではありません。

せん。予期せぬ事態においても慌てることなく、入居者・職員全員が迅速に対応できるよう、防災対策の体制づくりに取り組むことにしました。

◎…5点 ○…3点 △…1点

問題点	評価項目						総合評価	着目順位
	施設長方針	重要性	緊急性	効果期待	可能性	短期間解決		
ごみの分別が出来ていない	○	○	○	◎	○	○	21	3
<b>防災力・防災意識が低い</b>	<b>◎</b>	<b>◎</b>	<b>◎</b>	<b>◎</b>	<b>◎</b>	<b>○</b>	<b>28</b>	<b>1</b>
入居者のやる気がみられない	◎	◎	◎	○	○	△	22	2
倉庫の整理が出来ていない	○	○	△	△	○	○	13	4

テーマの選定

### ポイント ① テーマ選定

職場で気になる問題点を、改善対象として拾い出し、マトリックス図を使用して重要性・緊急性などの項目で評価し、評価点の高い問題点を活動テーマとして選び出しています。テーマ選定に至る説明文を拝見すると、当サークルがどのような考え方でテーマを選んだかが良くわかります。

### 3. 活動計画

	担当	3月	4月	5月	6月	7月	8月
テーマ設定	全員	→					
現状把握	水野	→	→	→			
目標設定	関谷		→	→			
要因分析	全員			→	→		
対策立案・実施	水野			→	→	→	
効果確認	城岸				→	→	→
波及効果	関谷					→	→
歯止め	城岸						→
反省	全員						→

#### ポイント ② 活動計画

計画と実績が忠実に記録されています。このステップは、活動計画を立て、順調に進めるためのガイドラインの役割と、活動の実績を記録することにより、計画との乖離を明確にする役割があります。加えて、計画どおりに進んだ、あるいは計画どおりに実行できなかった理由を明確にすることにより、内容の濃い反省が可能になります。

### 4. 現状把握

#### (1) 平成20年度の避難訓練実施状況

訓練を計5回実施しましたが、身体状況が原因で訓練に参加できない方が、毎回、3名から10名の範囲でおられました。

#### (2) 入居者36名の状況

- ①介護が必要な方は17名でした。
- ②補助具(押し車、杖)を使用されている方は19名でした。
- ③認知症の方は11名でした。

#### (3) 入居者の防災への関心度調査

- ①平成20年度の防災ビデオ上映会は、5回実施しましたが、毎回、8名から14名の範囲内で欠席者が出ていました。
- ②防災頭巾とタオルは、21名が常備していませんでした。
- ③非常時袋は、26名が準備していませんでした。
- ④消火器の使い方がわかる方は15名、消火器を知らない方が5名、使い方を知らない方は11名でした。
- ⑤消火器・火災報知機の設置場所が両方わかる方は8名、片方だけわかる方はそれぞれ5名、両方わからない方は15名でした。

#### (4) 入居者の環境

居室のクッキングヒーターは半数の利用者が使用、防災カーテンは31名が使用していました。懐中電灯は33名が使用可能でした。

#### (5) 「外出札」のミス件数

4月1日から20日まで、入居者が外出の際、居室の扉に掛ける「外出札」のミス件数を調べました。外出回数230回のうち、掛け忘れが126回、しまい忘れが32回ありました。

#### (6) 4月24日に実施した避難訓練の状況

参加者の避難時間は、2分以内が22名、3～4分が6名、5分～7分が3名でした。

避難に時間がかかる、あるいは参加しない理由は、「普段行事に参加しないから」「準備に時間がかかるから」「訓練に慣れていないから」「認知症があるから」等でした。

防災頭巾・タオルを両方携行した方は14名、避難時にドアを開けた方は3名でした。

#### (7) 職員へのアンケート

職員5名に対し、①各階の消火器の場所を知っているか、②消火器の使い方を知っているか、③各階にある消火栓の場所を知っているか、④消火栓の使い方を知っているか、⑤火災受信機を熟知しているか、⑥非常用放送設備を熟知しているか、⑦火災通報装置を熟知しているか、⑧防火扉を熟知しているか、⑨災害マニュアルを熟知しているか、⑩他事業所の宿直者に迅速に応援要請できるか、計10項目のアンケートを行いました。

1項目1点(10点満点)で集計し、5名の平均点は4点でした。

#### (8) 厨房委託業者へのアンケート

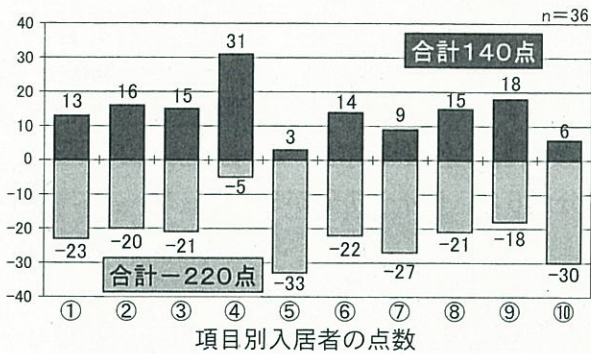
厨房スタッフ7名に消火器の使い方と設置場所を伺い、設置場所のみ知っている方は2名、両方知らない方は5名でした。

#### (9) 入居者へのアンケート

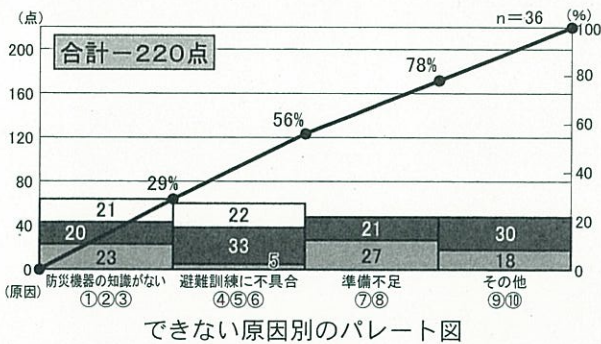
入居者36名に対し、①自分の階にある火災報知器の場所を知っているか、②自分の階にある消火器の場所を知っているか、③消火器の使い方を知っているか、④避難訓練に参加しているか、⑤避難訓練の際にドアを開けたままにしているか、⑥避難訓練の際に防災頭巾とタオル

を持って出ているか、⑦非常袋は準備しているか、⑧すぐに持ち出せる場所に防災頭巾とタオルがあるか、⑨防災ビデオ鑑賞会に参加しているか、⑩外出の際に外出札を正確に活用しているか、計10項目のアンケートを行いました。

○の場合は1点、×の場合は-1点とし、項目別に点数を集計しました。



さらに、できない原因別のパレート図を作成しました。



できない原因別のパレート図

### ポイント③ 現状把握

避難訓練や防災ビデオ上映への参加、入居者の身体的状況を層別したデータで明らかにするとともに、アンケートにより、職員の防災の認識や入居者の防災への関心の度合いをデータ化し、現状を明確にしています。できない原因別のパレート図では、防災機器の知識を得ること(アンケート項目①~③)が有効性が高いことが明確になっており、面白い使い方だと思います。

## 5. 目標設定

2カ月で、入居者の減点ポイント「合計-220点」を、半分の「合計-110点」以下にする。

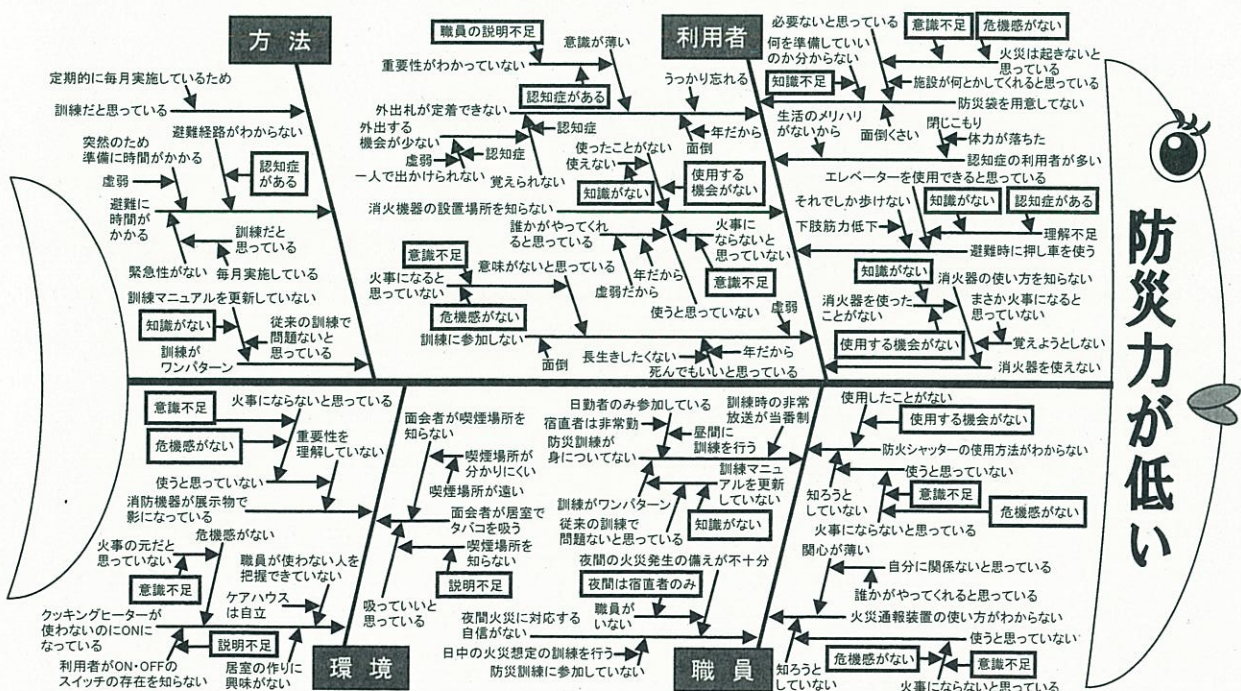
### ポイント④ 目標設定

目標を数値化することにより、活動の成果が目標に達しているかいないかを明確に判定することができ、活動に弾みを付けることができます。

定量的な目標が思いつかない場合は、今回の事例のように、サークルメンバー全員で数値化を工夫することが大切です。

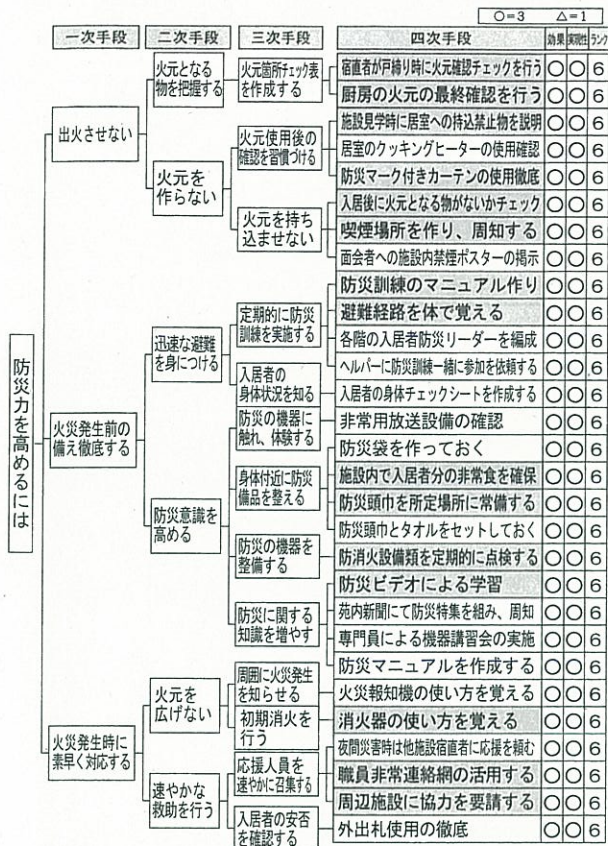
## 6. 要因解析

### (1) 特性要因図



防災力が低い

(2) 系統図



ポイント 5 要因解析

特性要因図を活用し、悪さ加減を発生させている要因を多く抽出し、重要な要因を選定し太枠で囲んでいます。抽出した要因数も多く、重要要因も丁寧に選んでおり、良い特性要因図といえます。残念ながら、重要要因が28個と多すぎ、真の要因が見えにくくなっています。そこで当サークルは系統図を用いて、「効果」と「実現性」により絞り込みを図りましたが、全てに○を付けたため、全て等価になってしまいました。評価項目の数を増やすか、評価のクライテリア(判断基準)を何段階か決めて、各項目の実情に応じた評価を実施して、ランク付けをする必要があります。

7. 対策の検討と実施

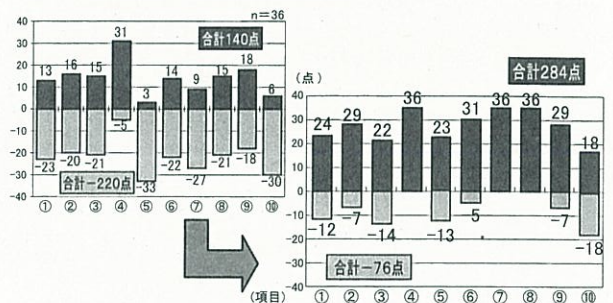
要因	誰が	いつ	どこで	何を	どうする
説明不足	職員	6月7日	苑内	苑内禁煙ポスターを	掲示する
意識不足 危機感がない	職員	6月25日	事務所	全員が訓練に参加できるような方法を	見直す
	職員	6月30日	食堂	余り布で作った防災袋を	配布する
防災機器を使用する機会がない	職員	毎月25日	事務所	非常用放送設備を	使用確認する
	職員	7月8日	食堂	防災機器に触れる機会を	作り、実際に体験してもらう
知識がない	専門員	7月8日	食堂	講習会を	実施する
	職員	随時	苑内新聞	防災特集を	組み、周知する
夜間は宿直者のみ	職員	6月23日	事務所	防災マニュアルを	更新する
	職員	7月10日	事務所	速やかに応援要請出来るよう体制を	整える
認知症がある	職員	外出時及び帰苑時	玄関	外出札の使用の徹底を	声掛けする
	職員	6月25日	防災訓練	各階の防災リーダーを	編成する

ポイント 6 対策の検討と実施

5W1H表を用いて、対策の検討と実施の方法を明確にしています。なお、担当者が、「職員」と「専門員」の2種類の表記になっていますが、具体的な担当者名を入れると、責任が明確になり、より良い対策が実施できます。

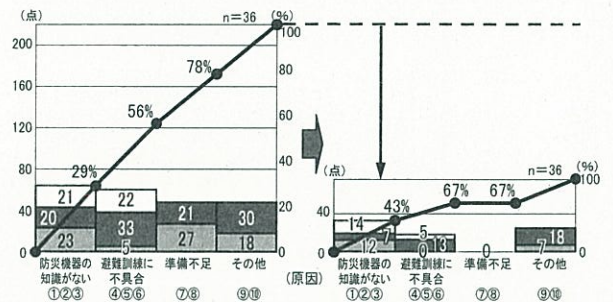
8. 効果の確認

(1) 項目別入居者の点数



2カ月で、入居者の減点ポイント「合計-220点」が、1/2以下の「合計-76点」になったため、目標を達成しました。

(2) できない原因別のパレート図(対策後)



(3) 入居者ポイント別効果確認

- ①・②消火器・火災報知機の設置場所が両方わかる方は8名から23名に増えました。
- ③消火器の使い方が分かる方は15名から22名に増えました。
- ④避難訓練の参加者数は31名から36名に増えました。また、36名中27名が2分以内に避難し、時間が短縮されました。
- ⑤避難時にドアを開けたままにする方は、3名から23名に増えました。
- ⑥訓練時に防災頭巾とタオルを携行する方は、14名から31名に増えました。
- ⑦・⑧非常時袋、防災頭巾とタオルは、36名全員が常備するようになりました。
- ⑨防災ビデオ鑑賞会への参加者は、18名から29名に増えました。
- ⑩7月16日～8月5日の間の「外出札」ミス件

数は、外出222回のうち、掛け忘れ12回、しまい忘れ8回と減少しました。

**ポイント ⑦ 効果の確認**

目標を数値化したため、成果が具体的になっており、目標を超過する成果を得られたことがわかります。さらに、入居者ポイント別に成果を明らかにすることにより、成果の大きさを更に実感できています。

**9. 波及効果**

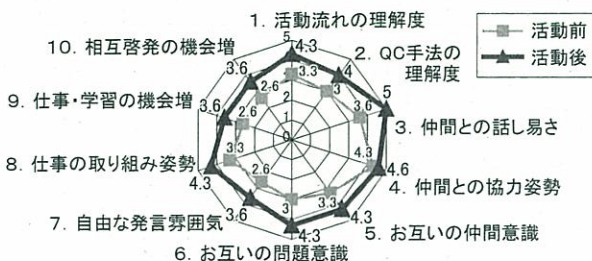
**(1) 利用者**

- ①「外出札」を定着化したため、出し忘れ、しまい忘れの防止につながった。
- ②防災袋の作製が利用者の楽しみになった。
- ③避難訓練の様子をビデオで見ることで、自分の行動に意識を持っていただくことができた。
- ④防災への意識が高まったため、消防機器を見えなくしていた展示物を片付けていただいた。

**(2) 職員**

- ①宿直者も毎回訓練に参加するようになった。
- ②職員全員(厨房職員含む)の防災への意識と備えを高めることができた。
- ③防災袋に入れるべきものを学ぶとともに、新たに必要なもの(薬の処方箋等)を追加することができた。
- ④避難に時間がかかる階を確認できた。
- ⑤居室のクッキングヒーター使用の有無を把握することができた。
- ⑥宿直時に常に持ち歩くべきもの(苑内コールPHS・携帯・マスターキー)を学び、職員全員に定着化することができた。

**(3) 活動前後のグループ環境の比較**



**ポイント ⑧ 波及効果**

活動を経験した利用者や職員の変化の度合いを克明に捉え、波及効果を明確にしています。これにより、活動の広がりや影響力の大きさが明確になり、実行して良かったことが理解できます。

**10. 歯止め**

分類	要因	対 策				
		誰が	いつ	どこで	何を	どうする
設備化	認知症がある	職員	8月18日	苑内	消防機器	分かりやすく表示する
標準化	意識不足	職員	月に一度	各居室	防災チェック	行う
教育	説明不足	職員	入居時	居室	外出札の重要性と使用徹底	説明し願う
					火元となるものの使用制限	説明する
					防災カーテンの使用	願う

**ポイント ⑨ 歯止め**

5W1H表を用いて、歯止めの施策と実行方法を明確にしています。標準化では入居者別に防災チェック表を作成して、標準化した防災方法の履行の状態を具体的にチェックして、管理の定着を図っています。

**11. まとめと反省**

項目	良かった点	苦勞した点
テーマ選定	施設火災による被害が注目されている中でのテーマ選定ができた	
現状把握	定期的に防災訓練を行っていたため過去のデータがまとめやすかった 多方面から現状把握を行うことができた	たくさん現状把握を行ったがまとめあげるのが苦勞し時間がかかった
目標設定	入居者に対して多く改善すべき点が見つかったため、目標を数値化し、まとめあげることができた	
要因分析	現状把握をしっかりと行ったためたくさんの要因を洗い出すことができた	
対策の立案と実施	他事業所を交え連携を組み対策する事ができた	対策でやるべきことが多く、時間がかかった
効果確認	目標が達成できた	入居者の状態悪化で効果を出すのに苦勞した
歯止め	常に意識付けていける対策を立てることができた	

今回の活動中、各地で頻繁に地震が発生し、当地域でも東南海地震を思わせるような地震が起きました。入居者から「居室の扉を開けて逃げる準備をした」等の声上がり、今回の取り組みの成果を感じることもできました。しかし、災害を身近に感じていない入居者もまだおられます。「まさか自分の身には起こらないだろう」という思いを、職員・入居者共に改善し続けていくことが、防災力を高める第一歩だと改めて感じました。

今回は火災対策中心に取り組みましたが、今後は地震対策も視野に入れて取り組みを続けていきたいと思ひます。

**ポイント ⑩ まとめと反省**

問題解決のステップごとに、「良かった点」と「苦勞した点」に分けて反省しています。このように細かに分けると、具体的な内容による反省が実施できます。